

—夏季大学雑感—

第16回夏季大学『新しい気象』講座雑感

(財)日本気象協会北海道本部 佐々木 浩

第16回を迎えた夏季大学『新しい気象』講座が、7月29日、30日の両日、札幌市青少年科学館、札幌管区気象台の各会場をお借りし、盛況裡のうちに今年も無事終了しました。(申込者62名、1日目58名、2日目48名参加)

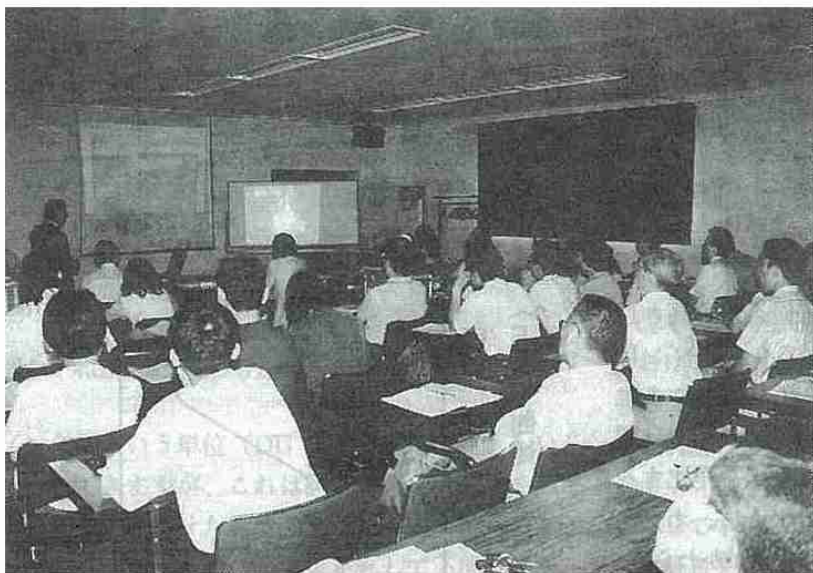
今回は、1日目の1講目は、地球環境問題に関連して注目されている大気オゾンについて、オゾンホールのお話を中心にして講義が行われました。この講義では、昨年9月を中心にインドネシア地域でおきた煙害とオゾンの生成についても話され、大気オゾンに関する基礎的な知識が得られたのではないかと思います。2講目は、紋別から講師の方に来ていただき、北海道に密接な関連をもつオホーツク海の流氷の形成と流氷が気象や気候に及ぼす影響についての話をさせていただきました。

2日目の1講目は、最近の北海道付近の地震活動について、その状況と備えについて豊富な図表に基づく講義でした。2講目は今冬から春にかけての天候経過と大気の流れの特徴およびエルニーニョ現象との関連に関する講義があり、エルニーニョ現象の基礎的な知識が得られたのではないかと思います。

最後になりましたが、今回の講座開催に当たりまして、会場の準備や接待役を快く引き受けていただいた札幌市青少年科学館の学芸課、札幌管区気象台の気候・調査課と業務課の皆さんに、この紙面を借りて厚くお礼申し上げます。



受講風景
(札幌市青少年科学館)



受講風景
(札幌管区气象台)



札幌管区气象台
見学風景